

教育長室からのお知らせ No. 75(令和 3 年 10 月)



教育長 田中 庸史

日に日に秋の深まりを感じる頃となりました。例年ならば残暑厳しい9月も、今年は涼しく過ごしやすい日が多かったように感じます。

夏に急拡大した新型コロナウイルス感染症ですが、本市では、2 学期開始後、状況確認のために学級閉鎖をした学校はあるものの、本市全体の学校運営に大きな影響は出ていない状況です。これは、家庭や学校における感染症予防対策の効果であると思います。また、このところ、全国、千葉県においても感染者数は減少しています。しかし、気を緩めればまたすぐに拡大へと転じることが危惧されますので、3 密の回避や手洗いの励行など、予防対策の徹底を引き続きお願いいたします。

さて、2 年ぶりに行われた全国学力・学習状況調査の結果が発表されました。市川市は、小学校・中学校ともに、全国、千葉県の平均値とほぼ同等でした。学力が維持できたのは、コロナ禍で通常の授業が難しい中でも、家庭の支援を賜りながら、子どもたちや教職員が工夫し努力を続けた成果であると感じております。

一方、課題として挙げられるのは「自己肯定感」の低さです。自己肯定感が高いほうが、学習に対する意識や挑戦心などが高いと分析されています。自己肯定感は、一つのきっかけで高まることもあろうかと思いますが、基本的には、幼少期からの「認められた」「ほめられた」などの経験の積み重ねによるものと考えます。また、協働的な学びや活動の中で自分の役割を果たすことでも育まれていきます。「あなたの考えはわかった」「ありがとう」「助かった」など、毎回しっかりと言葉にして伝えることが大事です。自己肯定感、人との関わりの中でしか育むことができません。コロナ禍にあっては人との関わりが希薄になりがちですので、一層注意が必要になります。身体的な距離を取らなければならない今、心の距離をどうか離さずに、子どもたちに寄り添っていただきたいと思います。

9 月には、小学校 4 年生以上にタブレット端末を配付しました。新たな学習やコミュニケーションの手段として、学校・家庭での活用が増えてきているようです。タブレット端末等 ICT 機器の有効な活用方法が今後さらに広がっていくことを期待しています。しかし、便利な道具も使い方を間違えれば子どもたちを追いつめるものとなります。学校で配付したタブレット端末がいじめの温床とならぬよう、情報モラル教育をしっかりと行っていかなければなりません。タブレット端末やスマートフォンを介したトラブルやいじめは外に現れにくいものですが、教職員だからこそ気づけることがあると思います。学校では、普段から子どもたちの様子に変化がないかを注視し、変化を感じたときには即座に行動し、いじめの早期発見・早期対応に努めてまいります。

今年度も残すところ半分となりました。4 月のスタートにあたって掲げた目標を達成するためには、節目で振り返って中間評価をし、軌道修正をすることが重要な作業となります。自己評価も大切ですが、そこに他者の視点を加えられれば、より客観的な評価となり、得られる気づきも多くなります。評価を教職員の成長とチーム学校の成長につなげる機会とし、子どもたちの教育に還元できるよう努めてまいります。